



上智大学

少数精鋭の学習環境で 現代社会のニーズに対応した法律家を養成

教育の特色

基礎科目の徹底修得により、深い知識と応用力を備え、国際問題や環境問題に多角的にアプローチできる人材を養成。

●基礎理論から応用実務まで、バランスのとれた最適カリキュラム

上智大学法科大学院は、法学教育の基本体系を踏まえつつ、現代社会の最先端のニーズを見据えた科目を提供しています。

公法、民事法、刑事法といった基本的な科目については、1年生から3年生にかけて、「基礎」から「応用(実践)」まで丁寧かつ多角的に鍛え上げる構成をとっています。

展開・先端科目では、国際関係法や環境法に関する豊富な科目が展開されるとともに、代表的な法分野だけでなく、「スポーツ・エンタテインメント法」など、現代社会のニーズに対応した科目を数多く含んでいます。

指導に当たる教員は、各分野における国内有数の優れた教授陣に担われています。研究者教員は、いずれもわが国の学会をリードする優れた研究業績を挙げているとともに、法科大学院教育にも熱心に取り組んでいます。実務家教員は、第一線で活躍するメンバーが揃っており、目指すべき実務家の在り方をまさに身をもって教授します。バランスのとれた思考力、新規の事案にも対応できる応用力を身につけられる指導で、理論と実務の両面において最高水準の教育を受けられるようにしています。

伝統的に、教員と学生の距離が近く、質問しやすい、相談しやすい環境であるのも特長のひとつです。

●基礎からの教育・未修者教育の重視

未修者向けのカリキュラムも一層の充実を図っています。必修入門科目「法学実務基礎A・B」を基軸としながらペースメーカーとして確認テストを実施し、徹底した基礎力の定着を図ります。また、各学年における進級テストに向けて、無理なく段階的に基礎力を向上させる仕組みを構築しています。

●特色ある教育プログラム

充実したエクスターンシップやリーガルクリニックの授業を通じ、法科大学院生が実際の法律家の仕事に触れ、職業意識や問題意識をより明確に持つことができるような機会を提供しています。2023年度のエクスターンシップでは、全体で20以上の法律事務所・官公庁・企業等にご協力いただきました。

また、日本有数の法律事務所である長島・大野・常松法律事務所から20名以上の弁護士との先生方に御協力をいただく「国際仲裁・ADR」は、長期休暇を利用して3日間かけて行う特色あるプログラムです。仲裁と調停という二つの異なる手続のロールプレイやグループディスカッション等を実施しながら、準備の仕方、準備書面の作成の仕方、説得力ある法的主張の仕方、依頼者への説明と関係調整、望ましい解決に向けた柔軟な思考の必要性、予防法務的視点等、法曹に要求される基本的な素養を実践的に学びます。国際法務に関心がない人にとっても極めて有意義な内容となっております。学内外で、高い評価を受けています。

また、国際舞台での活躍を目指す人のために、国際私法、国際取引法、Law and Practice of International Business Transactionsなど、多彩な科目を提供しています。環境分野では、国内法科大学院で唯一の環境法政策プログラムを実施しており、環境法関係科目を多数提供するだけでなく、第一線で活躍する研究者や弁護士、省庁職員、環境コンサルタントといった専門家を招いたセミナーを定期的に開催しています。このほか、外部に開かれたセミナーとして、Ecology Law Seminarを開催しています。これは、企業環境法などに関する最先端の話題を扱うセミナーで、法科大学院生は無料で参加できます。

●手厚い学修サポート

学修面でのサポート体制としては、担任教員と修了生弁護士がともに組んで、きめ細やかな指導を行う担任・担任補佐制度や、「上智法曹会」の全面協力によるチューター制度があります。上智大学法科大学院のチューター制度は、ターゲットとなる学生層(未修・既修・学年等)で効率的に設計されており、学生は学年ごとに設置される授業の理解や学習を補強するためのチューターゼミや、自分たちで希望する態様でチューターから指導を受けるオーダーメイド型のゼミ等を利用することができます。このほか、「基礎固め講座」や司法試験合格者による各種のゼミ、勉強会等も開催され、長期休暇を含め、一年中、様々なプログラムが提供されています。

修了後のキャリアプランを描くサポートとしては、全学向けの就職サポートを行うキャリアセンターの各種サービスのほか、企業法務担当者との交流会等を実施しています。教員と学生の距離が近く、質問しやすい、相談しやすい環境、上智法曹会との緊密なつながりも、魅力の一つです。

●最高の立地・充実した学習環境

四ツ谷駅の正面という抜群の立地を誇っており、通学に至便な学習環境を備えています。

法学研究科法曹養成専攻

●入学定員

40名
標準(3年制)コース 20名
短縮(2年制)コース 20名

●取得学位

法務博士(専門職)

●教員数

専任教員 22名(うち実務家教員5名)

法科大学院の教室、自習室、図書室はすべて2号館の2階に位置しており、移動には時間がかかりません。自習室は7時から23時まで利用できます。また、同じ2号館の上層階には教員の研究室があり、法科大学院生が気軽に質問に行きやすい環境となっています。

●奨学金制度

上智大学には、法科大学院独自の給付型奨学金の制度があります。2021年度の実績では、新入生および在学生のうちおよそ4割ほどの方が、授業料全額相当額、または授業料半額相当額の支給対象となりました。

○「上智大学篤志家奨学金(フランシスコ・スアレス奨学金)」

大学の成績及び入学試験の成績が優秀で、かつ、将来において国内外の様々な社会的要請に貢献できる優秀な法曹に至る見込みのある入学試験合格者に、授業料相当額、授業料半額相当額のいずれかを給付します。研究科の推薦による採用のため出願の必要はありません。○「上智大学法科大学院在学生特別奨学金」成績優秀かつ将来国内外の様々な社会的要請に貢献できる優秀な法曹に至る見込みのある在学生10名程度に、授業料相当額、授業料半額相当額のいずれかを給付します。研究科の推薦による採用のため出願の必要はありません。

その他、上智大学新入生奨学金、上智大学修学奨励奨学金、日本学生支援機構による奨学金、地方公共団体や財団法人、育英団体の趣旨にもとづく奨学金があります(給与・貸与)詳細は本学WEBサイト(入学案内>学費・奨学金)を参照ください。



入学者選抜

受験資格:大学卒(卒業見込み者含む)
※法律論文試験が憲法・民法・刑法の3科目となる学部3年生/法曹コース(開放型)特別選抜についての詳細は入試要項を参照下さい

募集人数:40名

注1 このうち「標準(3年制)コース」20名、「短縮(2年制)コース」20名
注2 短縮コースの定員20名には、本学法学部出身者向けの「法曹コース5年一貫型特別選抜」の対象者8名を含みます。

入試事項:

本学法科大学院Webサイトにて入試要項(PDFデータ)を公開中。ダウンロードして詳細をご確認ください。

実施時期:

本学の入学試験は、A日程(2024年7月)、B日程(2024年8月)およびC日程(2025年1月)の3回実施。

注1 短縮(2年制)コース志願者は、標準(3年制)コースとの併願を認める(法学部卒業生でも、標準(3年制)コースに出願可能)

必須提出書類:

1. 大学の学業成績証明書

2. 大学の卒業(見込)証明書 など
3. ステートメント

任意提出書類:志願者各自の能力などを証明する書類

1. 外国語の能力を示す証明書(TOEFL、TOEIC、英検など)
2. 大学時代の指導教員やゼミ担当教員などの意見書・推薦書
3. 各種資格証明書
4. 修士以上の学位を有する者は学位論文の概要 など

標準(3年制)コース入学試験の内容

1. 「一般論文試験」及び「必須提出書類審査」の結果、第一次試験合格者を決定。
2. 第一次試験合格者を対象として、第二次試験(面接試験)を実施。(C日程は同日に面接あり)

短縮(2年制)コース入学試験の内容:

1. 第一次試験として、「法律論文試験」を実施。
2. 出題科目は、憲法・民法・刑法・商法・民事訴訟法・刑事訴訟法
3. 「法律論文試験」及び「必須提出書類審査」の結果、第一次試験合格者を発表。
4. 第一次試験合格者を対象として、第二次試験(面接試験)を実施。(C日程は同日に面接あり)

カリキュラム 理論と実践を架橋する科目構成

(2024年度以降開講予定科目)

法律基本科目			
憲法基礎 行政法基礎 民法基礎I~IV 商法基礎 民事訴訟法基礎 刑法基礎 刑事訴訟法基礎I・II 憲法 行政法	民法 A~C 商法 A・B 民事訴訟法 A・B 刑法 刑事訴訟法 A・B 憲法演習 行政法演習 民法基礎演習 民法演習	商法演習 民事訴訟法演習 刑法演習 刑事訴訟法演習 公法(総合)I・II 民事法(総合)I・II 刑事法(総合)I・II 法学実務基礎 A・B 法学実務演習I~IV	民事訴訟理論と実務 企業取引法 論文演習I・II

法律実務基礎科目	展開・先端科目
法曹倫理 法律文書作成の基礎 訴訟実務基礎(民事) 訴訟実務基礎(刑事) ビジネス法務演習 環境法と実務 刑事実務 模擬裁判(民事) 模擬裁判(刑事) リーガルクリニック エクスターンシップI・II 国際仲裁・ADR ネゴシエーション・ロイヤリング	(社会経済法系) 労働法基礎 労働法I・II 労働法演習 租税法I・II 経済法I・II 知的財産権法I・II 倒産処理法I・II 民事執行・保全法 金融法<共同開講> スポーツ・エンタテインメント法<共同開講> (国際関係法系) 国際法基礎 国際人権法 国際経済法 国際私法基礎 国際私法 国際取引法 国際家族法 (環境法系) 環境法基礎 環境法政策 環境訴訟 企業環境法 環境リスクマネジメント 比較環境法 自然保護法 まちづくり法と実務 廃棄物・リサイクル法 環境法の現代的課題 環境刑法 国際環境法

基礎法学・隣接科目	研究論文・その他
比較法(EU法) 英米法 法哲学	Law and Practice of International Business Transactions<共同開講> 特殊講義(警察活動と法実務) 自主研究・論文作成法

※他大学法科大学院(早稲田、日本)との単位互換制度を導入しています。

特に優れた外国語能力を有する者の特別枠について:
上智大学法科大学院の特色の一つである国際社会に貢献できる法曹養成のために、特に優れた外国語能力を有する志願者について、外国語特別枠を設けて、積極的に評価します。特に優れた外国語能力とは次の通りです。
a. 英語については、
1. TOEFL (IBT) 100点以上
2. TOEIC 900点以上
3. 英検1級 など } (IPテストは不可)
b. ドイツ語・フランス語については、独検1級、仏検1級など

※その他の外国語については、外国大学卒業またはそれと同等の学力と認められる場合。詳細については問い合わせのこと。

ただし、上智大学法科大学院の入学試験を受験し、
1. 一般論文試験(標準(3年制)コース)
2. 法律論文試験(短縮(2年制)コース)
3. 面接
の結果が一定の水準に達している必要があります。

[A日程]四谷キャンパス

募集人員 11名 標準(3年制)コース7名
短縮(2年制)コース4名
出願期間 2024年6月21日(金)~7月4日(木)
第1次試験 2024年7月28日(日)
第1次合格発表 2024年8月22日(土)
第2次試験(面接) 2024年9月14日(土)
最終合格発表 2024年9月25日(水)

[B日程]四谷キャンパス

募集人員 11名 標準(3年制)コース7名
短縮(2年制)コース4名
出願期間 2024年7月18日(木)~8月1日(木)
第1次試験 2024年8月31日(土)
第1次合格発表 2024年9月6日(金)
第2次試験(面接) 2024年9月14日(土)
最終合格発表 2024年9月25日(水)

[C日程]四谷キャンパス

募集人員 10名 標準(3年制)コース 6名
短縮(2年制)コース 4名
出願期間 2024年11月22日(金)~12月6日(金)
筆記試験および面接 2025年1月12日(日)
最終合格発表 2025年1月22日(水)

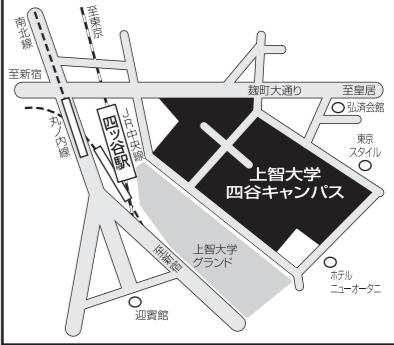
※面接試験は、ステートメント等に基づく質問や、論理的思考力・考え方の柔軟性等をはかる口頭試験を含みます。

学費・奨学金

●学費(2024年度・参考)
入学金:27万円 授業料:88万9000円
教育充実費等、納付金合計:1,446,020円(標準3年制コース)
●奨学金
授業料全額免除・一部免除の奨学金のほか、金融機関と提携したローン制度あり

◆アクセス

●東京会場(四谷キャンパス)
JR中央線・総武線・東京メトロ丸ノ内・南北線
「四ツ谷」駅下車徒歩3分



●問い合わせ先

〒102-8554
東京都千代田区紀尾井町7-1
上智大学
法科大学院事務局(カリキュラムなど)
Tel 03-3238-3259
入学センター(入学試験・授業料など)
Tel 03-3238-3108
URL <http://www.sophialaw.jp/>